



CONTENTS

Top Opinion

ポストコロナのサステナブルなTOD

(株)東急総合研究所 フェロー・主席研究員 太田 雅文

1

VOICE

日本南極地域観測隊員という貴重な経験(その1)

飛鳥建設(株)(第48・50次日本南極地域観測隊)橋本 斉

2

たすきリレー

縦貫線～神田よもやま話

(株)大林組 柳澤 則雄

3

WS Topics

今月の国際比較データ

PF書店/私のインフラ巡礼/編集後記

4

5

Top Opinion

ポストコロナのサステナブルなTOD

(株)東急総合研究所 フェロー・主席研究員 太田 雅文

2020年初頭からのコロナ禍は人々の生活や価値観に大きな影響を及ぼした。感染拡大防止のため制約された対面による接触に代わり、オンライン打ち合わせが台頭した。朝起きて何も考えずになんとか通勤する習慣はなくなり、オフィスは作業場ではなくリアル会議や来客のみに行くコミュニケーションの場になった。当然、鉄道の経営環境は激変する。通勤しないのであるから、これに付帯する業務や私事のトリップも減る。大都市圏鉄道事業者の今年度上期輸送人員もコロナ前の15～25%減になっており、郊外に住み都心に通勤するモビリティを基軸とするTOD(Transit-Oriented Development)戦略も見直しを迫られている。



もう1つ注目すべき潮流は、企業のサステナブル・ESG指向の高まりである。2020年の菅首相は施政方針演説で、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロを宣言したように、環境への貢献は待ったなしである。ほぼ全ての鉄道、不動産、流通等地域密着型業種業態企業の統合報告書には、地域社会の持続的発展への貢献がマテリアリティ(重要課題)として明記されている。TOD事業者にとって、沿線まちづくりとの連携は、最早慈善事業ではなく、経営の根幹の一部としての成長戦略を担う存在になっている。

デジタル活用により大都市圏だけでなく地方都市との連携やリソース共有も容易となる。Web3、メタバース、NFT等多地域居住を指向するデジタルノマドと親和性の高い新技術の存在感も増してきている。そして、であるからこそリアルな交流拠点となる場(=プレイス)を社会インフラとしていかに整備していくのか、ということが重要である。「えんどう豆」構造の沿線のみで盛り上がるのではなく、団地再生や農業による沿線間の拠点創出やモビリティ・グリーンインフラによるネットワーク構造、すなわち豆が糸を引いたように見える「納豆」構造へと導くことが、ポストコロナのサステナブルまちづくりのポイントなのではないだろうか。



私のインフラ巡礼



未来構想PFのホームページ(HP)をご覧ください。

会員はもちろん社会に大きく開かれた「参加型」HPです。

未来構想PF

検索

で検索してください。

トップページへのリンクは

[こちら](#)

～釜石鉱山～

明治時代の開坑から150年余りの歴史を持つ鉱山
(JR東日本 谷澤 寛さん)



VOICE

日本南極地域観測隊員という貴重な経験（その1）

飛島建設(株)（第48・50次日本南極地域観測隊）橋本 斉

南極観測は、1956年から開始され60年以上もの長きにわたり継続されてきた。そして、観測隊員および物資の輸送に欠かせないのが南極観測船であり、現在就航中の「しらせ」が4代目となる。私が観測隊に参加した際に課せられたミッションは、新観測船就航に伴う昭和基地内での輸送システムの整備であった。南極への道のりや昭和基地での衣食住、南極という未知の場所での設営作業に不安を感じながら体験し、寒冷地で隊員たちと協力して作り上げた建造物が、私のかけがえのない財産となった。

1 南極への道のり

1.1 南極へ行く決断

2005年12月、私宛に会社から南極派遣についての1通のメールが届いた。あまりの突然のことで戸惑い、自分では判断できなかったのが家族に連絡した。一部始終を説明したが、その電話の向こうで「行きたいのでしょうか？」という問いかけに、迷いながらも最終的に家族の賛成が決断の背中を押した。

1.2 日本南極地域観測隊

1956年に国民の期待を背に開始した南極観測。その役割を担う観測隊は「夏隊」と「越冬隊」で構成され、「夏隊」の南極滞在期間は12月中旬から2月中旬までの2ヶ月であり、日本の冬の時期は、赤道の向こう側の南極では真夏である。もちろん、夏と言っても南極の平均気温は零度を超えない寒さである。そして白夜であり太陽が沈まない光景から、この夏隊を「日帰り隊」と称されることも少なくない。一方、「越冬隊」は同じく12月中旬から翌々年の2月中旬まで南極で過ごす。滞在中の隊員の身分は、文部科学省傘下の公務員となるため、日本を離れる際には公用旅券が用意され、支度金も支給されるので収入が無くなることはない。ただし、南極ではお金の使い道が無く、給料は日本に残された家族のもとに入ってしまうため、小遣いをもらう必要もない。



写真 白夜を演じる「沈まぬ太陽」

1.3 南極観測隊員への道のり

(1) 訓練と健康診断

まず隊員候補として臨んだ「冬季訓練」で蓼科高原の冬山に挑んだ。そこに集った隊員候補には、研究者もいれば医者も、そして料理人や山岳ガイドもいた。様々な分野のスペシャリストが一堂に会し、南極イズムを叩き込まれる。そして雪山での訓練は寒さとの闘い、夜は宴会での酒との闘い。酒癖の悪い人、協調性に欠ける人はいつの間にか消える。次の難敵は健康診断で、観測隊員になるには病気ひとつあってはならない。当然健康上の問題で脱落する者もいる。健康診断をパスし、数回の集合教育を受講し晴れて隊員決定のあとに待っていたのは「夏季訓練」である。今度は菅平高原での合同合宿だったが、いよいよ南極行きが現実になり、期待と不安が頭をよぎる中、南極観測隊員としての心構え（日本代表としてのプライド）、自分が南極で何をすべきか、隊員同士の協力がどれだけ大切か、南極の危険とその対策、そして体力増進などがあり、いずれも実のある訓練であったのは間違いない。時代は変わっても南極の色々な意味での厳しさは変わっていない。

(2) 南極での役割

私は第48次と第50次の「夏隊」として南極を目指した。観測隊の任務にはどちらかという世間に認知され注目度の高い「観測部門」とあまり知られていない「設営部門」に分類されるが、私はこの縁の下の力持ち的存在の「設営部門」の土木・建築担当で参加した。一度目の観測隊派遣の時は躊躇したが、二度目は会社から止められても行きたいと思った。そして二度行くと三度目が恋しくなる不思議な場所である。過酷な自然環境の中で様々な魅力を感じることができたからだと思う。（続）



たすきリレー

縦貫線～神田よもやま話

(株)大林組 柳澤 則雄

私は昭和53年に国鉄入社以来、東二工・本社・東工所・JRC・大林組と鉄道建設工事関連に従事して気が付くともう45年も経ちました。特に上野東京ライン（建設当時は東北縦貫線工事：以下縦貫線）の協議再開（平成14年）から着手（平成20年）・開業（平成27年）までの13年間は、神田の地元の方々の生活と触れ合うことが多かったので今回ご紹介いたします。

○神田事務所

神田事務所は、平成16年2月から開所され、東北新幹線時代神田駅周辺の工事担当で神田の町を良く知っている徳光さんと2人で着任した。神田事務所では、まず地元の理解を得るために縦貫線の模型を作成した。模型の周辺ビルは、階数とビルの形を住宅地図から見て作成するのが通常です。私達は、関係者にビルのオーナーが多いことから自社ビルが適当なら縦貫線の模型も適当だと思われると思い、周辺ビルの屋上の看板やビルの形など模型製作者とビル1棟、1棟チェックして完成させる等思いを込めた模型を製作した。

○地元行事の参加

縦貫線沿線の神田地区約900mの沿線には、関係町会等は16町会・5商店会と数多くあり、各会長に私達の顔をすぐに覚えて頂けなかった。町会名も由緒があり、鍛冶町（鍛冶屋）・紺屋町（染物屋）・乗物町（籠職人）等江戸の町の由来が伝わる町名もあった。平成14年当初は「縦貫線の白紙撤回の申入書」がJRに提出された。反対派には、「地元では夜一人で歩かない方がいいよ」とか、ある会長はなかなか会って貰えなかったり、とにかく建設反対者が多かった。窓口の連絡協議会の会合は2ヶ月に1回しかなく話す機会が少なかったので、各町内会長・商店会長に直に会ってご意見を聞くのが当初の日課であった。そんな折に今度夏祭りがあるから顔を出しなと誘われ、徐々に町会の行事等に参加し地元との交流を図れるようになった。最大の行事は神田祭りである。日本でも有名な神田祭りであるが、町会の人は神輿誘導・交通整理・給食の手配等で忙しく、神輿を担ぐのは神田明神の宮入れだけしかでき

ない。やむを得ず祭同好会等に神輿の担ぎ手をお願いするのですがなかなか集まりません。そこで、東工所で募集し各町内会に応援を行い地元貢献を図った（延べ80人動員/回）。徐々に町会との距離が短くなり、新年会・旅行会・夏祭り・納涼船・丹沢大山参り等にも参加ができるようになった。

○ゴミ拾いの参加

平成17年1月まだまだ地元との交流が少ない頃に商店会長からゴミ拾い（駅周辺の環境美化）の誘いを受け参加することになった。毎週水曜日と金曜日の19時から神田駅周辺を約40分程度のゴミ拾いを行い、その後神田の飲み屋で懇親会を行う。懇親会の方が時間が長く、地元の様々な話が聞けてより親密な関係を築けた。徐々に昼間神田の町で会った時声をかけて貰うようになった。当初は、電話BOXにサラ金やキャブクラのシールが一杯張ってあり、タバコの吸い殻、神田駅の出口にはサラ金の立て看板を持った立ちんぼがおり、凄く雑然としており、初めて神田駅を降りた人は引いてしまうほど環境は良くなかった。縦貫線開業頃では神田の皆さんの努力と、携帯の普及により電話BOXの廃止、サラ金規制により店舗が減少し立ちんぼがいなくなり、なお且つ防犯カメラの普及等あり神田駅周辺の環境がすこぶるよくなった（553回、延べ828人参加）。

神田は、東京丸の内・日本橋・秋葉原に歩いて行ける程の東京の都心のだ真ん中であるが、田舎より町会の伝統行事や町会の結束が非常に強く、人情味のある楽しい街であった。今考えると楽しい13年間でした。神田の街にもチェーン店が多くなり昔ながらの佇まいが消えようとしています。良かったら神田の街にお越しくください。



神田祭り～東工所応援団



ゴミ拾い（佐竹藩江戸屋敷 佐竹稲荷前）



WS Topics

首都圏郊外拠点駅の在り方WS



先月号でも少し触れさせていただきましたが、「首都圏郊外拠点駅の在り方WS」につきましては、ワークライフバランスの重視、働き方改革、DXの進展、新型コロナウイルス感染症対策など日常生活のあり方が変わりつつあることを念頭に置いた「首都圏郊外駅の在り方」をテーマとして、9月にキックオフいたしました。

第1回全体会議が9月21日に、第2回全体会議が11月18日に開催され、第2回全体会議ではワークショップのテーマ及び班構成、有識者からのヒヤリング、フローチャートの共有が行われました。有識者からのヒヤリングでは、奥森様（日建設計）、太田様（東急総合研究所）、岸井様（計量計画研究所）から貴重なご講義をいただき、今後のワークショップ活動の参考になりました。



NIKKEN マルチタスクを有する中間エリアの駅まち空間など



写真 有識者からのヒヤリングの様子

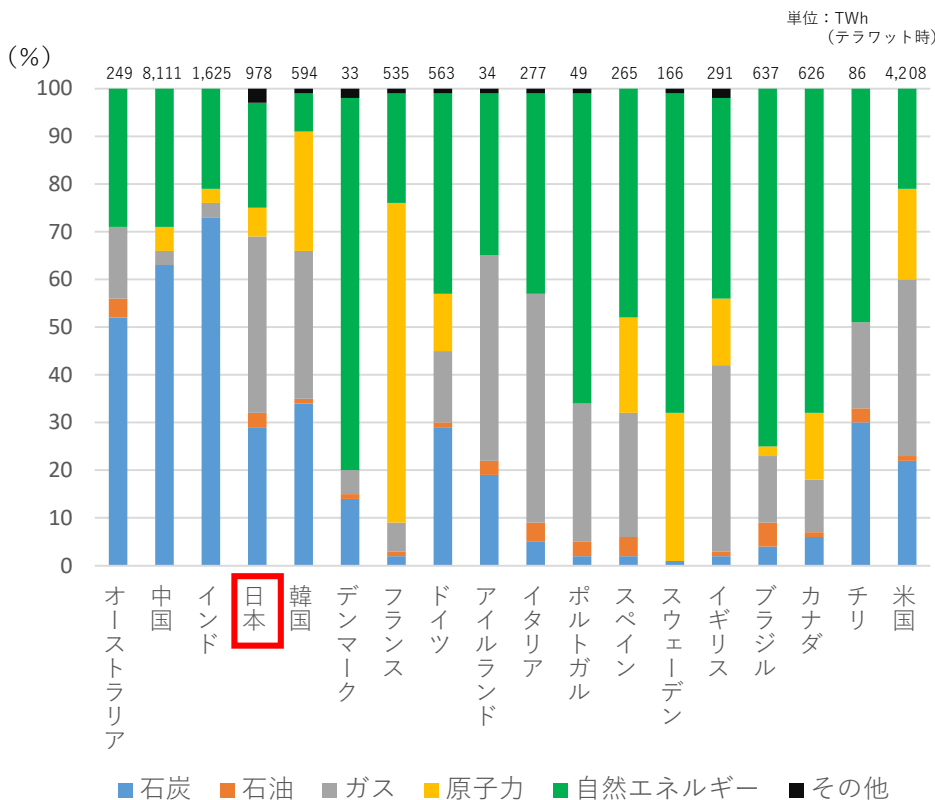


今月の国際比較データ



●国別の電源構成

今年11月にエジプトのシャルムエルシェイクで開催された国連気候変動枠組み条約の第27回締約国会議（COP27）では、「欧州連合（EU）を中心に先進国は温室効果ガスの排出削減を加速させること」に交渉の主眼を置いて議論が交わされました。そのような中で、主要国の電源は何から産み出されているのか、電源構成を紹介します。



出所：IEA, Monthly Electricity Statistics - Data up to December 2021 (2022年3月)

2022.10.18 プラットフォーム研修

新生100年

社会と街と駅の関係は

(一財) 計量計画研究所代表理事 政経研究大学院大学 客員教授
(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長
岸井 隆幸



PF 書店



本の題名をクリックすると、出版社の書籍紹介HPにリンクします！

① **人はどこまで合理的か** (スティーブン・ピンカー著 草思社)

SNSが情報の中心になりつつある現代において蔓延るフェイクニュース。どう考えても理屈に合わない陰謀論・似非科学・フェイクニュースを信じてしまうのはなぜ？このような非合理的信念は、社会の分断をも生み出す大問題となっている。それを克服するための7つの道具が「形式論理学」「確率論」「ベイズ推論」「合理的選択理論」「信号検出理論」「ゲーム理論」「相関と因果を見分ける方法」。私たちの合理性を鍛えてくれるこの7つ道具を直観的に使いこなすのは難しい。この本では詳細にこれらの道具の扱い方を解説してくれている。

② **世界は五反田から始まった** (星野博美著 ゲンロン)

職場が五反田付近に移ったことをきっかけに気になって読んでみた一冊。本書では著者の出身地・五反田での一家の三代記と、五反田から展開される現代史を祖父の手記を手掛かりに展開される。五反田を中心として、戸越や大崎、高輪など馴染みのエリアが登場し、特に戦中に紙幅が割かれているが、現在のコロナ禍やウクライナ戦争、今後の日本で起こり得る災害等を考えながら読むとさらに心に響く。「世界は五反田から始まった」とはなんと大袈裟な書名かと思いきや、ふと考えると、世界は各々が生きてきた場所から始まるのである。

③ **ロシアの星** (アンヌ＝マリー・ルヴォール著 集英社)

1961年に人類初の有人宇宙飛行を成し遂げたガガーリン。「地球は青かった」はあまりにも有名な言葉であるが、そんな彼の人生を様々な場面や視点によって連作として構成されており、軽快に読み進められる「ロシアの星」。ウクライナに侵略したロシアは厳しい制裁を受けたことで国際宇宙ステーションへの協力停止を発表してしまった昨今において、ロシアの過去の偉業を改めて実感できる一冊である。

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。

連絡先：未来構想 PF 事務局 大口

電話：03-4334-8157 メール：info@miraikoso.or.jp

〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28



私のインフラ巡礼



「釜石鉱山」 (岩手県釜石市)



北上山地の沿岸部に位置し、明治時代の開坑から150年余りの歴史を持つ鉱山。良質な鉄鉱石が採れた他、金、銀、銅、鉛、亜鉛なども産出し、釜石の製鉄業等を支え続けてきました。しかし、海外から安価な鉱石が輸入されるようになると採算が厳しくなり、1993年に大規模な採掘は終了。今は地下350mから湧き出る鉱泉水を利用したミネラルウォーター「仙人秘水」の販売など、鉱山跡を利用した観光施設となっています。写真は、釜石鉱山の跡と、近くの釜石線陸中大橋駅に残るホッパー（出荷、積み込みまで貯めておくための貯炭槽）の遺構です。かつての繁栄を偲ばせる遺構が、今は静かな山間の駅にひっそりとたたずんでいます。

余談ですが、釜石線の沿線は宮沢賢治に縁が深く、各駅にはエスペラント語による愛称が付けられています。文中の陸中大橋駅の愛称は、「Minajo (ミナージョ：鉱石)」です。

(JR東日本 谷澤 寛さん)

編集後記

今年も新型コロナウィルスに翻弄される年でしたが、少しずつ正常化への兆しが見えてきたところです。来年は卯(うさぎ)年ですが一説によると兎が跳ねることから景気にとっては相性の良い年だそうです。依然として予断の許されない状況ではありますが来年こそは景気回復に期待したいと思います。(S.K)